【平成22年度・マクロ経済学I・中間試験】

**(Version記号：Ａ)**

☆　平成22年6月22日実施

☆　筆記用具・定規・電卓（携帯電話の電卓利用不可）は持ち込み可

☆　【問1】～【問4】は多肢選択問題、【問５】～【問6】は論述計算問題です。

☆　与えられた解答用紙には必ず、学籍番号・氏名などに加えて**Version 記号を必ず記入**すること。

【多肢選択問題】

【問1】~【問4】は多肢選択問題です。設問に対して最も適当なものをひとつだけ選びなさい。（複数回答には配点しません。）(各10点)

1. 景気動向指数について次の選択肢のうち、最も適当なものをひとつだけ選びなさい。
	1. 景気動向指数のＤＩは関連する11系列のうち、すべての系列の変化がすべてプラスであるとき景気は上昇期にあると判断される。
	2. 景気動向指数のＤＩは関連する11系列のうち、すべての系列の変化がすべてマイナスであるとき景気は上昇期にあると判断される
	3. 景気動向指数のＤＩは関連する11の系列のうち、ひとつに変化がなく他の５系列の変化がプラスで残りの５系列の変化がマイナスである場合には、景気の山もしくは谷を示している。
	4. 景気動向指数のＤＩは関連する11系列のうち、過半数の系列の変化がすべてマイナスであるとき景気は上昇期にあると判断される
	5. 景気動向指数のＤＩは関連する11の系列のうち、ひとつに変化がなく他の5系列の変化がプラスで残りの５系列の変化がマイナスである場合には、景気は下降期にあると判断される。
2. ある経済の一人当たりＧＤＰが40年で2倍になった。のちの文章はこの観察について説明したものだが、これらのうち、最も適当なものを一つだけ選びなさい。
	1. この経済の40年間の平均成長率は1.75％程度であった。
	2. この経済の最初の20年間の成長率は後の20年間よりも低かった。
	3. この経済の40年間の平均成長率は3％程度であった。
	4. この経済の最初の20年間の成長率は後の20年よりも高かった。
	5. 上の(ア)～(エ)はすべて誤りである。
3. 次の文章は、太字で示された用語を説明したものである。これらの説明のうち、最も適当でないものを一つだけ選びなさい。
	1. **閉鎖経済**とは、他の経済との交易（貿易）を行わないと仮定した経済である。
	2. **ストック変数**とはある一時点において、時間の単位を定めることなく計測できる変数である。
	3. **中間財**とは、今年と来年の間で消費されずに持ち越される財のことを指す。
	4. **フロー変数**とは、計測する期間を定めることなしには意味が判明しない変数である。
	5. **独立投資**とは、需要や需要予測などに左右されることなく行われる投資で、劣化により利用できなくなった機器の置き換えのための投資も含まれる。
4. ある経済では、パンのみを生産している。パンが出来上がるまでのプロセスが、小麦農家→製粉工場→パン工場→パン屋→消費者 の順番で製品化されるとしたとき、次のようにこれらの企業の金銭の授受が記録されている。このプロセスについて、後の選択肢から、最も適当でないものをひとつだけ選びなさい。

表：パンの生産プロセスでの金銭授受（単位＝千円）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （小麦農家） |  | （製粉工場） |
| 受取 | 支払 |  | 受取 | 支払 |
| 小麦販売額230 | 地代賃金総額利潤 | 9011030 |  | 小麦粉の販売額500 | 小麦の購入額地代賃金総額利潤 | 2301001. ）

50 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （パン工場） |  | （パン屋） |
| 受取 | 支払 |  | 受取 | 支払 |
| パンの販売総額800 | 小麦粉の購入額地代賃金総額利潤 | 50010013070 |  | 消費者への販売総額1000 | パンの購入額賃金総額利潤 | 8002000 |

* 1. この経済において、小麦農家の生み出した付加価値(＝ＧＤＰへの寄与)は230千円である。
	2. この経済において、製粉工場がその雇用者に対して支払う賃金総額(表の①)は100千円である。
	3. この経済において、パン工場の生み出した付加価値は300千円である。
	4. この経済において、パン屋から消費者が購入したパンの購入総額はすべての生産段階での付加価値の合計に等しい。

【論述・計算問題】

1. (20点)　次のように、ある経済の2年間にわたる名目ＧＤＰと価格指標（ここではＧＤＰデフレーター）の値が与えられている。これらについて後の問いに答えなさい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年 | 名目ＧＤＰ | ＧＤＰデフレーター |
| 2000 | 550 | 100 |
| 2001 | 540.3 | 97 |

1. 国民経済計算における「三面等価」で述べられている国民所得の3つの側面は何か述べなさい。
2. 名目ＧＤＰと実質ＧＤＰの違いについて説明しなさい。
3. この経済の物価レベルは上がっているか下がっているか理由を示し述べなさい。
4. この経済の実質ＧＤＰを計算しこの2年間の実質ＧＤＰの成長率を計算しなさい。（小数点以下第2位で四捨五入すること。）
5. (40点)　ある経済が閉鎖経済で、民間部門および政府部門によって構成されている。また、次のよう、この経済の財の市場を表す式が与えられている。これらについて後の問に答えなさい。

消費関数：C＝30+0.5Yｄ

独立投資：I＝20

政府支出：G＝10

但し、C は消費支出、I は投資支出、Ｙは国民所得、Yｄは可処分所得とする。また、この経済において、所得税は一括税でＴ＝10であるとする。

 (ア) 基礎消費はいくらになるか、また限界消費性向（MPC）はいくつであるか特定しなさい。

(イ) この経済の総需要（AD）を表わしなさい。

(ウ)経済の均衡条件を数式であらわし、均衡国民所得を求めなさい。

(エ) この経済の潜在生産高が150であったとする。このとき、市場にはインフレギャップもしくはデフレギャップが存在するか説明しなさい。また、その大きさがいくらであるか計算しなさい。

（オ）上の（ウ）、（エ）の状況を表す図を描きなさい。[図は出来るだけわかりやすく丁寧に作図すること。縦軸と横軸がどの変数を表すか正しく示しなさい。]

(カ) 今、政府支出がＧ´＝20 に上昇した（即ちΔＧ＝10）。この時新しい均衡国民所得はいくらになるか計算しなさい。(エ)で示したギャップはゼロになったか？

(キ) この経済における政府支出の乗数はいくつか、**（ウ）と（カ）の結果を用いて計算しなさい**。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*（↓↓↓　計算スペース↓↓↓）\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*